

3 研究の実際Ⅱ

(1) 発問の3つのタイプ

田中武夫は発問を、事実発問、推論発問、評価発問の3つのタイプに分けています。田中によるそれぞれの発問の特徴を基に、読みの段階に応じて3つのタイプの発問を行い、それぞれの段階でどのような読解ストラテジー(研究の実際Ⅰ資料2)を活用しているかを検証することで、生徒の思考力の高まりを判断します。判断材料は、生徒の発話やワークシートに表出された内容とします。

表1 読みのプロセスを踏まえた発問のタイプと期待される発問への対応

発問のタイプ	各発問の特徴	期待される発問への対応(読解ストラテジー)
事実発問 (fact-finding questions)	本文内容上に直接示された内容を読み取らせる。	本文内容に書かれている情報を正確に取り出す(検索読み、テキストに印を付ける等)。
推論発問 (inferential questions)	本文内容上の情報を基に、本文内容上には直接示されていない内容を推測させる。	書かれた情報から推論して、本文内容の意味を理解する(推測、憶測する等)。
評価発問 (evaluation questions)	本文内容に書かれた内容に対する読み手の考えや態度を答えさせる。	書かれた情報を自らの知識や経験に関連付ける(個人的体験と照合する、文化的知識を活用する等)。

(2) 教科書本文の類型と対応する推論発問について

読みの指導の中での発問のタイプを、事実発問、推論発問、評価発問の3つに分類し、発問を構成します(表1)。さらに、田中による対話文の推論の対象となる事柄(図1)と、推論発問のパターン例(図2)及び物語文の推論発問のパターン例(図3)を参考に、英文のタイプに応じた発問構成を考えます。

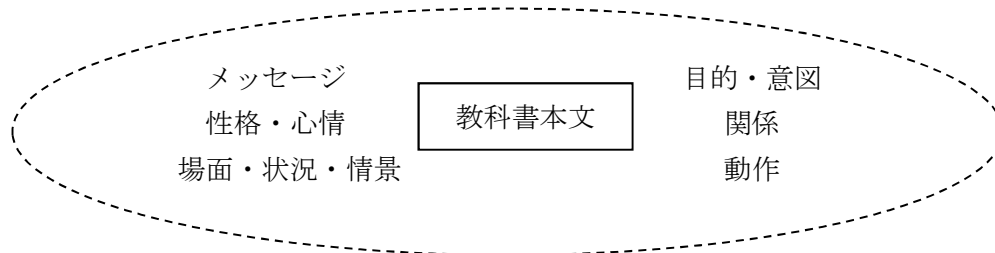


図1 対話文において推論の対象となる事柄

- 1 行動の目的や意図を推測させる。
- 2 場面や状況を推測させる。
- 3 人物の性格や心情、関係を推測させる。
- 4 行動や出来事の結果を推測させる。
- 5 本文内容にない動作や言葉を推測させる。

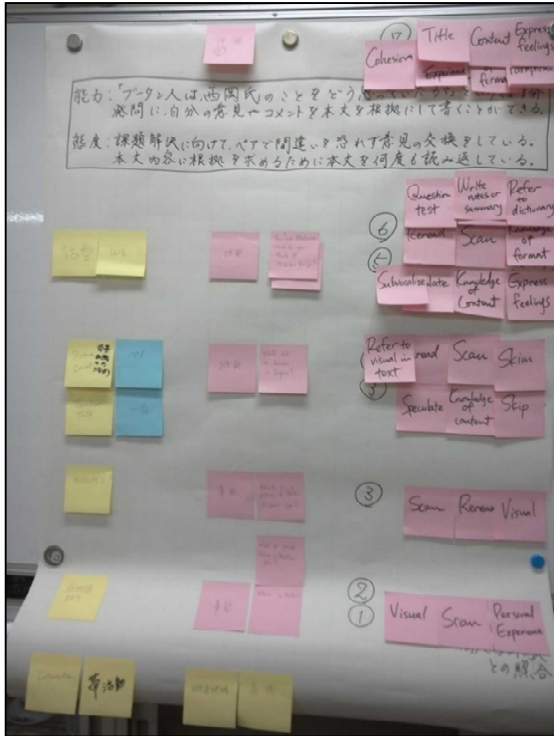
図2 対話文における推論発問のパターン例

- 1 行動の目的や意図を推測させる。
- 2 場面や状況を推測させる。
- 3 人物の性格や心情、関係を推測させる。
- 4 行動や出来事の結果を推測させる。
- 5 本文にはない行動や言葉を推測させる。
- 6 本文全体の主題を推測させる。

図3 物語文における推論発問のパターン例

(3) 発問構成の具体

生徒の思考をスムーズに促すために、Watersによる思考の分類（研究の実際Ⅰ図2）と読解ストラテジーの視点で単元づくりを構造的に捉え、次のような方法で発問構成を計画しました。



資料1 Lesson 4 Speech - A Man's Life in Bhutan の発問計画

資料1は、上記の手順に沿って作成した第3学年の1単元の発問構成です。単元づくりを構造的に捉え、単元計画を可視化しながら行うことで、認知処理レベルに応じてバランスよく発問を構成することができ、生徒の思考の促進につながる言語活動を仕組むことができると考えます。また、発問に対する生徒の対応も予想でき、クラス全員が参加できる活気ある授業展開が期待できます。

資料2は、第1学年の発問計画表です。発問構成を軸に単元づくりを行うと同時に、発問と組み合わせる手立てについても計画を立てました。

- ア 発問案を付箋に書き出す。
- イ プロセスに応じて、応用紙に付箋を配置し、単元を構造的に捉える。
- ウ 発問と読解ストラテジーの活用を照合し、認知処理レベルに基づいていることを確認する。
- エ 発問以外の手立てや発問への答えさせ方を計画する。
- オ 発問やその他の手立てと単元ゴールとのつながりを見ながら、発問の内容や順番、数を整理する。
- カ 発問の選択は、その答えの根拠を本文に求めることができるかどうかを判断基準にして行う。

	発問計画	発問のタイプ	推論の対象	その他の手立て
①	笹森さんについての発問			帯活動 ワークシート Teacher Talk グループ活動
	Who's this woman?	事実発問		
	Is she a singer?	事実発問		
	What is her group name?	事実発問		
②	ニックについての発問			電子黒板 ワークシート Teacher Talk グループ活動
	What's this?	事実発問		
	What's his name?	事実発問		
	What does his name come from?	背景知識を活性化させる発問		
	Do orcas live alone?	推論発問	場面・状況・情景	
③	シャチの家族の情景を思い浮かべさせるための発問			帯活動 ワークシート Teacher Talk Picture Cards グループ活動
Please imagine where orcas are.	推論発問	場面・状況・情景		
How many orcas can you see?	推論発問	場面・状況・情景		
Where is Nick?	推論発問	場面・状況・情景		
Where is a mother orca?	推論発問	場面・状況・情景		
How many babies can you see?	推論発問	場面・状況・情景		
④	beautifulに込められた笹森さんの気持ちを読み取らせるための発問			Teacher Talk シャチ型浮袋 ワークシート 電子黒板 グループ活動
How big is Nick's fin?	背景知識を活性化させる発問			
Do you think Nick's fin is beautiful?	推論発問	場面・状況・情景		
⑤	Ms. Sasamori thinks Nick's fin is beautiful. Why?	推論発問	心情	Teacher Talk ワークシート グループ活動
	Nick watches his family all the time. Why?	推論発問	目的・意図・心情	
⑥	Why does Nick do this pose?	推論発問	目的・意図・心情	Teacher Talk ワークシート グループ活動
	単元ゴール：「なりきり音読」コンテスト			
	笹森さんになってガイドをしよう。	評価発問		ワークシート ホワイトボード

資料2 PROGRAM 7 The Wonderful Ocean の発問計画

(4) 検証の視点

1年次は、読みのプロセスに応じた発問構成と読解ストラテジーに焦点を当て（図4）、思考の高まりと読解ストラテジーの活用との関連性について、2年次は、読みのプロセスに応じた発問構成を軸に、発問と組み合わせる手立てに焦点を当て（図5）、その有効性について検証を行いました。

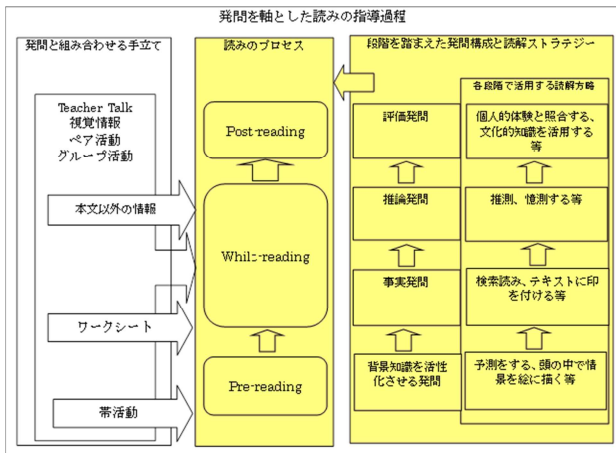


図4 1年次の研究の焦点

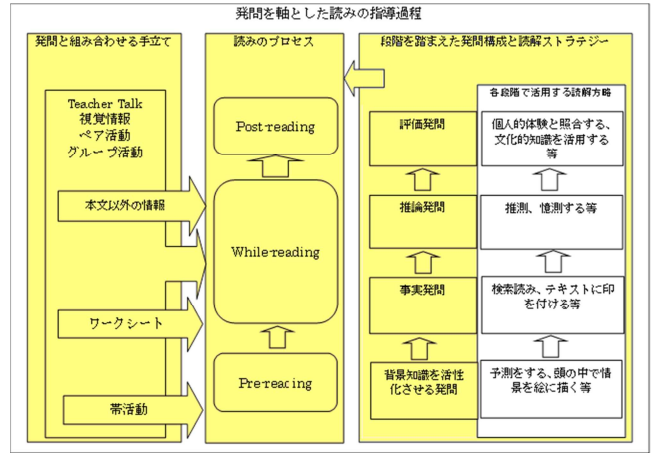


図5 2年次の研究の焦点

生徒の発話や評価発問に対する答えの英文及びパフォーマンス・テストにおける表現を基に、以下の7点を検証しました。

- ア 英語熟達度に課題が見られる生徒が読みの理解に集中できるように、Pre-reading の段階で新出単語や基本文の理解を促すことができたか。
- イ 英語熟達度に課題が見られる生徒が推論発問や評価発問の段階でも適切に読解ストラテジーを活用することができたか。
- ウ 英語熟達度に課題が見られる生徒が本文内容を根拠として考えや気持ちを述べることができたか。
- エ 発問構成とそれに伴う手立てが生徒の思考を促すのに有効であったか。
- オ 英語による事実発問が生徒の読解ストラテジーの活用に影響し、生徒の思考を促すことができたか。
- カ 英語による推論発問が生徒の読解ストラテジーの活用に影響し、生徒の思考を促すことができたか。
- キ Teacher Talk が良質な Input となって生徒の Output として表出されたか。

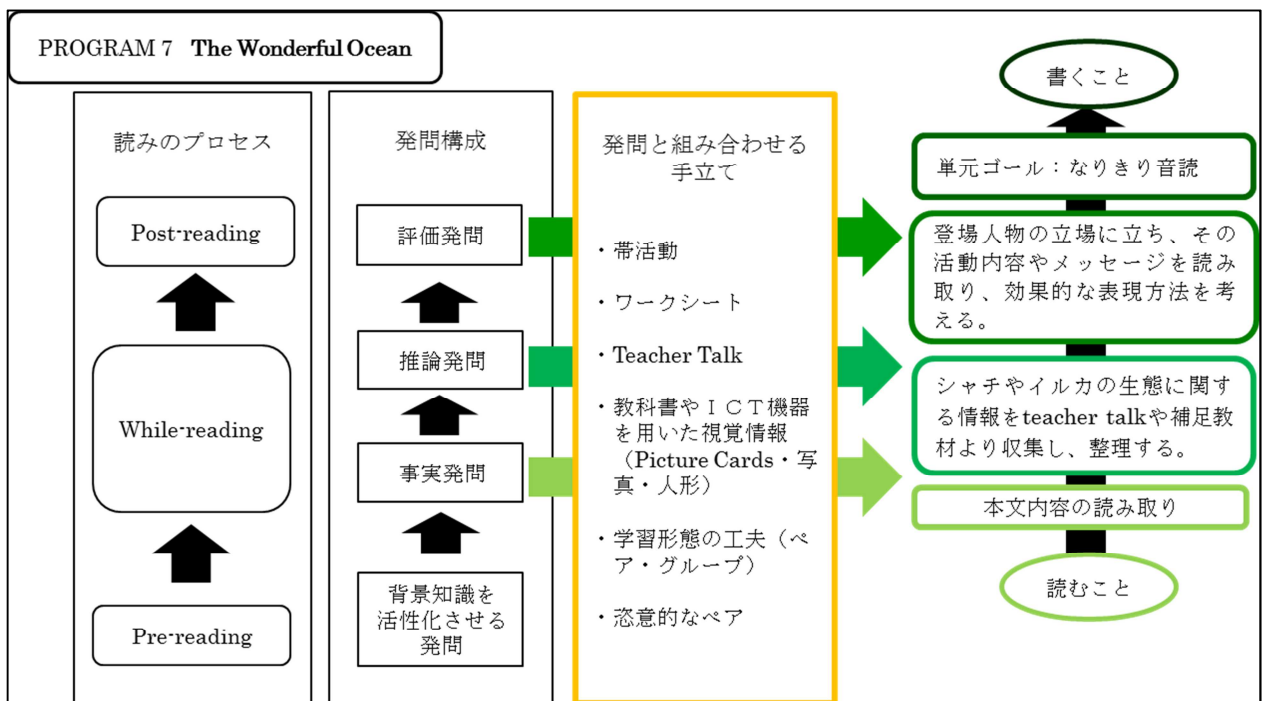
(5) 発問を軸とした単元構想と思考の高まりの見取り

ア [実践事例1] 第1学年 PROGRAM 7 The Wonderful Ocean

(ア) 読みのプロセスに応じた発問構成

Pre-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・Teacher Talkや写真などで興味をもたせ、本文の内容をつかみやすくさせる。 ・生徒とのInteractionの中で海洋動物や登場人物に関するキーワードや写真の質問に答えさせ、情報を整理させる。
While-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのInteractionの中で本文に関する質問に答えさせたり、シャチやイルカの情報を整理させたりする【事実発問】。 ・登場人物の思いを読み取らせ、その活動目的やメッセージを推測させる【推論発問】。
Post-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を基に「なりきりガイド文」の原稿を作成させ、登場人物の立場になって表現させる【評価発問】。

(イ) 単元構想図



(ウ) 発問ごとの生徒の読み取りと生徒の思考力の高まりについての見取り

各段階における読み取りができたかどうかは、それぞれ以下の方法で見取ります。また、思考力が高まったかどうかについては、生徒の発話やワークシートの記述及びパフォーマンス・テスト「なりきりガイド」における表現を基に、生徒が読解ストラテジーを活用したかどうかで判断します。




- a 事実発問を通して、説明文の大切な部分などを正確に読み取らせ、読み取った情報を整理しながらまとめさせます。本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、ワークシートの記述及び生徒の発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。


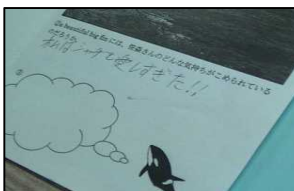
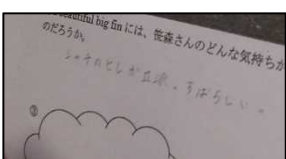

- b 推論発問により、登場人物の気持ちを推測させたり、本文には明記されていないメッセージ等を読み取らせたりします。推論発問に対する答えを本文の内容を根拠に推測することができるかどうかを、ワークシートの記述と生徒の発話から見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- c 評価発問（登場人物になりきってガイドをしよう）に対して、登場人物の気持ちやメッセージに関する推測を基に、グループごとにガイド文の原稿を作成させます。「なりきりガイド」をパフォーマンス評価することで、生徒の読みの深まりと思考の高まりを見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- (エ) 発話やワークシートの記述に見られる手立ての有効性
発問を軸とした言語活動の設定と発問と組み合わせる手立てが、生徒の読み取りや思考の高まりに有効であったかどうかを、以下の3点について分析・考察します。
- ① 生徒が発問に対してどのように反応しているか。
 - ② 生徒が読解ストラテジー（**研究の実際 I 資料 2**）をどのように活用しているか。
 - ③ 生徒の最終的な記述（ここでは「なりきりガイド文」の原稿）に指導の手立てがどのように反映されているか。

a 検証授業における言語活動

本文内容を根拠に発問に答えている
帯活動の有効性が見られる

Teacher Talk の有効性が見られる
読解ストラテジーを活用している

活動	発問の目的	生徒の対応	
<p>帯活動 (ペア活動)</p>	<p>定型表現（本時はWhat time do you...?）の練習を行う。ペア活動を行うことで、英語を自然に話す雰囲気を作り、挨拶や相槌を入れながら会話を続けるように促す。</p>		<p>A: Hello. B: Hello. A: What time do you get up? B: I get up at six. A: Really?</p>
<p>事実発問①</p>	<p>正確な理解を確認させる。答えを「探す」よりも「考える」ことを求める。本文中の follow/watch/a baby などへの気付きを促し、シャチの位置関係を考えさせる。</p>	<p>グループ A</p> 	<p>S1: Nick はここじゃない？ watch...だから見守っている。 S2: Watches them all the time... 彼らを見守っているから、たぶん遠くにいるんじゃない？</p>
<p>生徒の背景知識を活性化させる発問</p>	<p>推論発問にスムーズに回答できるよう、シャチに関する知識をクラスで共有させる。シャチ型の浮袋や2メートルの棒の提示し、生徒の背景知識の活性化を図る。</p>	<p>グループ B</p> 	<p>T: Why do you think it is Nick? S4: Nick has a big fin. This is a nick. T: What is "nick" in Japanese? Ss: 欠け目！</p> <p>T: How big is Nick's fin? Ss: (電子黒板に提示されたシャチの写真を見て) <u>About 2 meters?</u> でかい！ T: Class, anyone who thinks Nick's fin is beautiful? Ss: (生徒は手を挙げませんでした。)</p>

<p>推論発問①</p>	<p>推論を促す発問。本文を基に根拠を推測させるため、理由を聞いた。生徒に繰り返し本文を何度も読ませる効果もある。</p>		<p>生徒は根拠に印を付けながら、本文を何度も読み返していました。</p>	
		<p>グループ A</p> 	<p>S1: 笹森さん変わっているね。 S2: シャチを好きすぎるんじゃない？ S1: シャチを愛しすぎた。 S3: beautiful...美しい？すばらしい？</p>	
		<p>グループ C</p> 	<p>S7: シャチはひれが魅力。そのひれを見てほしいから beautiful と言っている。</p>	
		<p>グループ B</p> <p>S5: 「ニックを毎年見に来るくらいだから、ニック依存症になっている。」</p>		
		<p>グループ D</p> <p>S8: 「ニックのヒレに欠け目があり、それが特徴で、そこから名前を付けるくらい、その欠け目を美しいと思っている。」</p>		
<p>推論発問②</p>	<p>Nick の行動の目的や心情を推測させる発問。根拠を求め、生徒に何度も本文を読ませる。</p>	<p>グループ B</p> 	<p>S4: 「家族の中の頭だから、大事な家族を守っている。」 S6: 「head としての責任感。」</p>	

「テキストに印をつける」「戻り読み、読み直し」「頭の中で情景を絵に描く」「書かれている内容に疑問を抱く」「推測する」といった読解ストラテジーを活用していることから、計画的な発問構成は生徒の思考を高めることが分かります。研究の実際 I 図 2 の Waters の思考の分類と、研究の実際 I 資料 1 の意見・考えを引き出す工夫を参照すると、かなり高レベルの思考が促されたことが分かります。また、発問に対する根拠として Teacher Talk が有効であることが分かります。

b 「なりきりガイド文」原稿

本文の表現や Teacher Talk、帯活動などを参考に、オリジナル文を加えている

私たちの班の発表目標
ジェスチャーまでしっかりする。

*笹森さんになりきってシャチウォッチングのガイド文を作ろう。

ガイド文 I

文の順番	ガイド文	役割	笹森さんやシャチの動き
1	Hi. I'm Sasamori.	スワゴンバイ	
2	I'm a tour guide today.		
3	Look at that orca.		
4	His name is Nick.	↓	
6	He usually lives with his family. (ワズ)	言う	サチをみる

ガイド文 II

文の順番	ガイド文	役割	笹森さんやシャチの動き
5	Nick has a beautiful big fin on his back.		Nickを(指)指して
7	We can see a mother orca in front of Nick.		Weをさし、サチの背を指して frontで指し示す。 Look! でサチを指す。
8	Look! She has a baby with her. (ワズ) (ハ)	↓	
9	The baby always follows her.	シキ	
10	Nick watches them all the time.		ニクを少しおき、サチをみる。
11	He is a good father.		
12	We like him very much.	↓	

VP.(イ)言う。

教科書本文の表現を別の表現で言い換えていることがわかります。本文の内容を正しく読み取った上で、Teacher Talk で得た情報を加え、オリジナル文を書いています。単元全体の発問計画（研究の実際Ⅱ資料2）に基づき、ワークシートに情報をまとめさせたことで、「テキストとの相互作用を行う」といった読解ストラテジーを活用し、豊かな表現へとつなげています。

また、ガイド文を読むと同時にジェスチャーを効果的に加えています。文字を映像化し、自分と海の中のシャチとの距離感を表しています。シャチの位置関係に言及していることから、follow や watch を正確に読み取っていることがわかります。

私たちの班の発表目標
笹森さんの感情によりよって表現をする

* 笹森さんになりきってシャチウオッチングのガイド文を作ろう。

ガイド文Ⅰ

文の順番	ガイド文	役割	笹森さんやシャチの動き
1	Hi, I'm Sasamori Kotoe.		
2	I'm a turguibe.		
3	I know a lot a bout orcas.		
4	Look!! at thet orca.		
5	His name is Nick.		
6	Do you know what his name comes from?		
7	He has a Nick on his fin back.		
8	He's the heab of his family.		

ガイド文Ⅱ

文の順番	ガイド文	き
9	By the way.	
10	Do you know how long is Nicks fin?	
11	His fin is 2 meters!	
12	I like to see his fin.	
13	I enjoy!	
14	Thank you!	

このグループのガイド文は、ほとんどがオリジナルですが、教科書本文や Teacher Talk を基に作成した内容です。

帯活動のペア活動において、挨拶や相槌などを入れながら会話練習をすることで、生徒は挨拶や自己紹介をガイド文に取り入れています。相手意識をもって、Hi. で始まり Thank you. で終わるガイド文を作成しています。

By the way という話題を提示する表現を使って、Teacher Talk で得た「ニックの名前の由来」をガイド文に加えています。豊かな表現として表れていることから、読みの指導における発問を軸とした言語活動を通して読みが深まり、登場人物と自分を関連付けて考えることができたと考えます。

(ウ) 「読み」から「表現」へつなげる手立てについて

本研究のねらいは、読みのプロセスを踏まえた言語活動を通して生徒の思考力を高めることで、豊かな表現活動へとつながる学習指導の在り方を探ることです。ゴールとする表現活動をどのように設定すれば良いかの参考にするために、検証授業前にアンケートを行いました。

アンケート結果から、生徒は「聞く」「話す」といった音声面の活動を得意だと感じ、「書く」「読む」の文字指導に対して課題を感じていることが分かります（図6及び図7）。1年生2学期という段階では、生徒自身の語彙力も十分ではありません。また、一般動詞、3人称単数形現在、疑問文や否定文などの文の種類などを新しい言語材料として学習する時期です。特に「書く」ことに対しては74%の生徒が苦手意識を感じており、書くことの領域で表現活動を行うことは難しいと考えました。そこで、単元ゴールのパフォーマンス課題に「なりきり音読」を設定し、読みの過程での生徒の思考の高まりがどのような形で表現されるかをパフォーマンス・テストで評価しました。原稿となるガイド文は生徒自身に作成させましたが、教科書本文の表現やTeacher Talkによる情報を用いることで、書く活動における生徒の心理的負担を軽減しました。

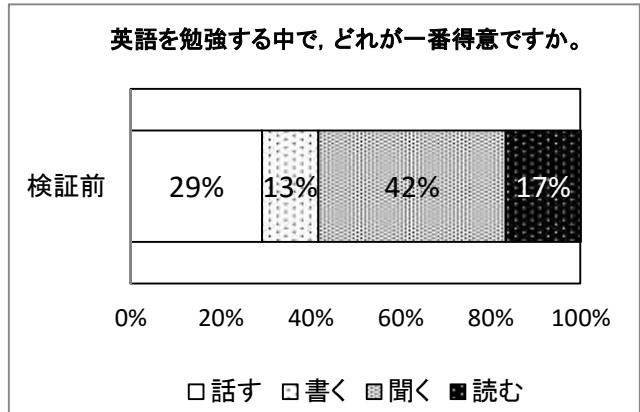


図6 各領域に対する生徒の意識①

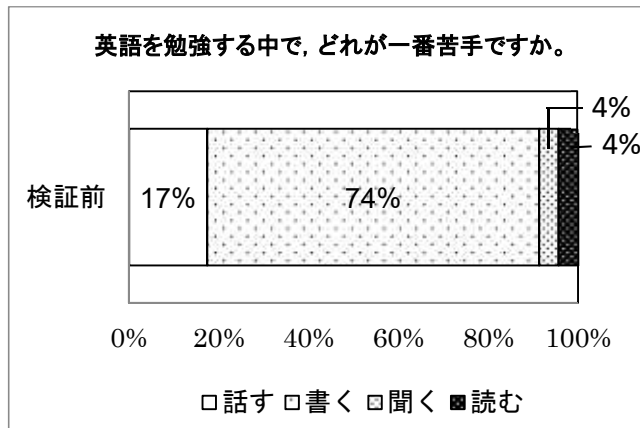


図7 各領域に対する生徒の意識②

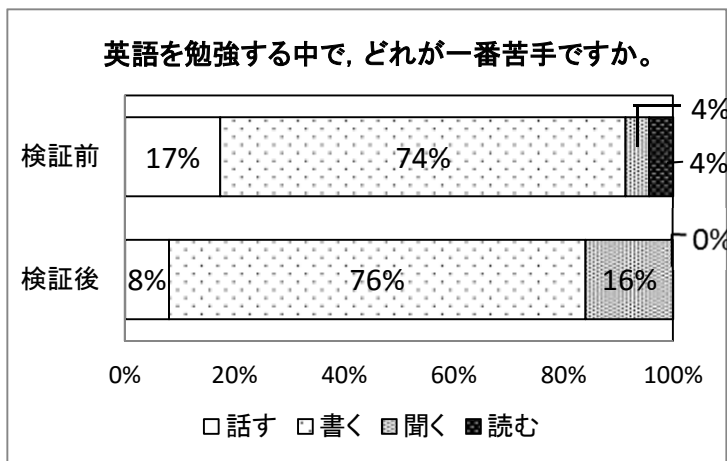


図8 各領域に対する生徒の意識③

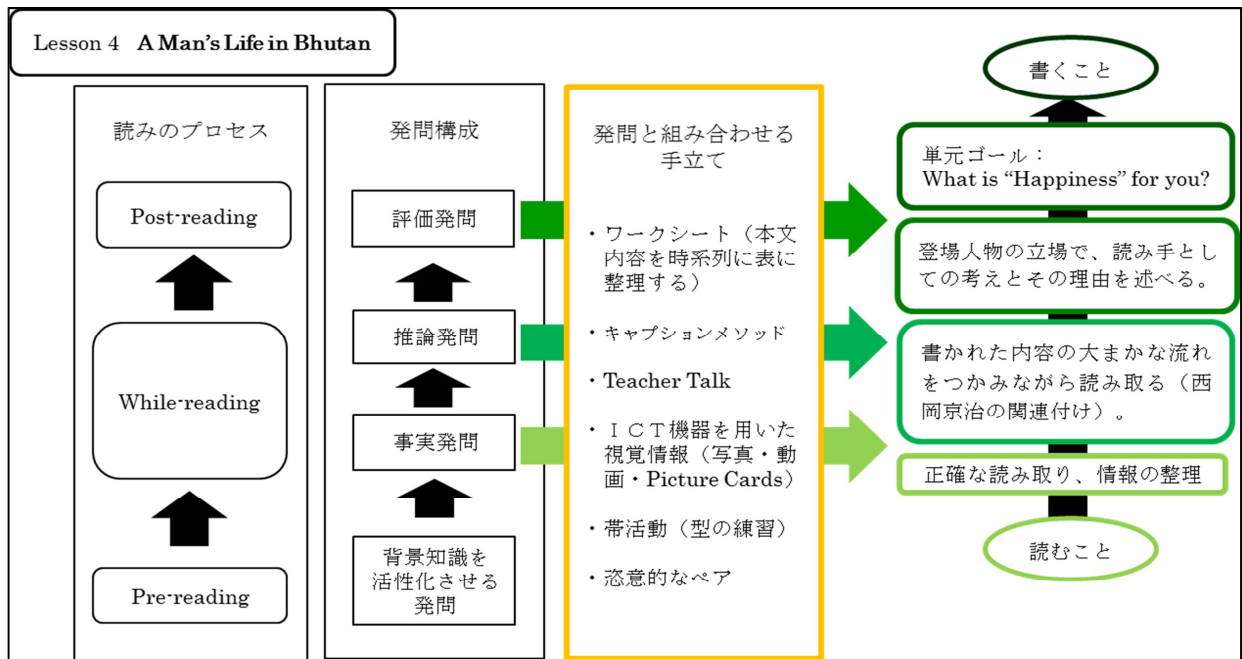
パフォーマンス・テスト後に同じアンケートを行ったところ、「読む」ことを苦手だと答えた生徒が1人もいませんでした（図8）。「なりきりガイド」コンテストを終えての感想として、「3人で協力してガイド文を作ることを頑張った」「他の班が言わなさそうなことを探して、分かりやすくすることを重点的に頑張った」などを挙げています。学習形態を工夫したことや、教科書本文を何度も繰り返して読むように発問を仕組んだことが成果として表れました。また、英語によるTeacher Talkが生徒にとって適切なinputとなりoutputに活かされたことが明らかになりました。

イ [実践事例2] 第3学年 Lesson 4 Speech -A Man's Life in Bhutan

(ア) 読みのプロセスに応じた発問構成

Pre-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・Teacher Talkや写真などで興味をもたせ、本文の内容をつかみやすくさせる。 ・生徒とのInteractionの中で西岡京治に関するキーワードや写真の質問に答えさせ、情報を整理させる。
While-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒とのInteractionの中で本文に関する質問に答えさせたり、タイムラインに情報を整理させたりする【事実発問】。 ・本文を根拠に西岡京治がブータンに行く前に日本でしていた仕事を推測させる【推論発問】。 ・ブータン人の立場で「西岡京治についてどう思うか？」質問に答えさせる【推論発問】。
Post-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ブータンに関する動画を視聴し、「あなたにとって幸せとは？」という質問に5文以上の英文で答えさせる。本文を基に自分の考えを表現させ、深い思考や豊かな表現を引き出させる【評価発問】。

(イ) 単元構想図



(ウ) 発問ごとの生徒の読み取りと生徒の思考力の高まりについての見取り

各段階における読み取りができたかどうかは、それぞれ以下の方法で見取ります。また、思考力が高まったかどうかについては、生徒の発話やワークシートの記述及び産出した英文を基に、生徒が読解ストラテジーを活用したかどうかで判断します。

- 事実発問を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、年号や出来事を時系列にまとめたタイムラインの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 推論発問に対する答えを本文の内容を根拠に推測することができるかどうかを、ワークシートの記述と生徒の発話から見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。

- c 評価発問(What is “Happiness” for you?)に対して、本文に描かれている登場人物の生き方と自分の体験を関連付けた上で、自分の意見とその理由を述べているかどうかを、ワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。

(エ) Output に表れた変容

検証前の英作文(Let’s introduce yourself.)と検証後の英作文(What is “Happiness” for you?)を比較し、生徒(a～w)の書いた英文の量と質の変化を分析しました。検証前の生徒の書いた英文の数は、検証前は平均9.9文であるのに対し、検証後は6.3文と減少していました。検証前の指導で、まずは生徒の書くことへの抵抗感を軽減するため、評価基準を「A:文法的に正しい文が7文以上 B:文法的に正しい文が4～6文 C:文法的に正しい文が3文以下」と設定し、生徒に提示したためだと考えられます。しかし、1文に使用している文の数を比較すると、検証前が4.6語だったのに対し、検証後は6.6語に増えました(図9)。

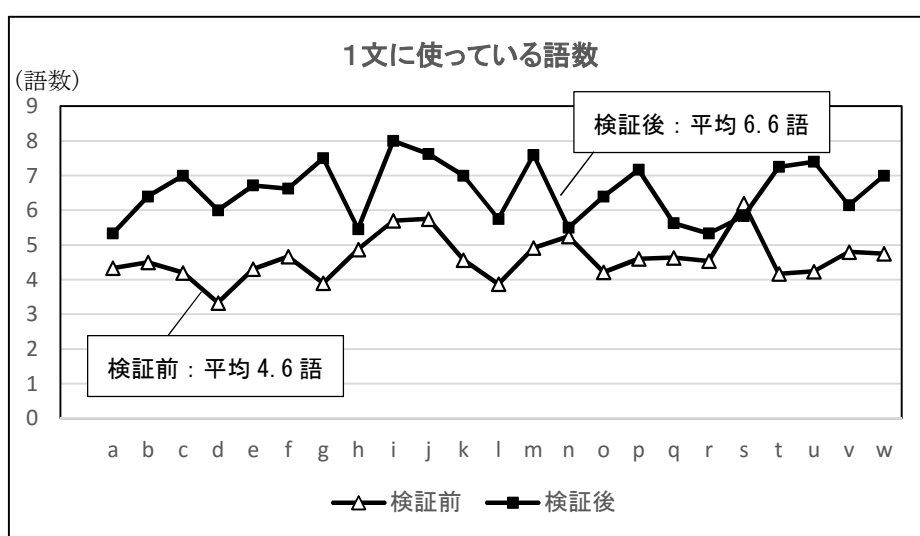


図9 英文の量的変化

次に、検証前と検証後の生徒の書いたワークシートの英文を比較し、質的な変化を分析しました。検証前は、脈絡もなく自分の情報を伝える英文が全体的に多く見られました。それらのほとんどは単文で、英文にまとまりがありませんでした。検証後の英文を見ると、表現が豊かになっているのが分かります。授業でペア学習を導入したことや、帯活動で英文の型の指導を行ったことの効果は英文に表れています。単文だけの情報の羅列にとどまっていた英文から、重文や複文を用いた論理的な一貫性をもつ英文に変化しています。また、教科書本文の表現を用いたり、教科書の内容を反映させた英文を書いたりしている生徒も多く見られます。発問を効果的に行った結果、教科書本文を何度も読み返し、表現を定着させたと考えられます。また、深い読みを行うことで思考力が高まり、教科書の内容を主体的に捉え、批判的な読みを始めているといえます。

a A群の生徒の英文

Let's introduce yourself!

☆マッピングをして、整理してみよう。

I am [redacted] I am 14 years old. I live in Koshima now. But I lived in Karatsu 8 years ago. I am good science. But I am not good Japanese. I play table tennis. My hobby is watching baseball. Hiroshima Toyo Corp is the best in Japanese baseball teams. My favorite singer is Fukuono Masaharu.

評価 S・・・10文以上 A・・・7-9文 B・・・4-6文 C・・・0-3文

Lesson 4 Speech - A Man's Life in Bhutan
Worksheet 3

☆You are Bhutanese. What do you think of Nishioka Keiji?

I think he is (amazing).

I have three reasons. First, He was learned language, Bhutanese. Second, He helped different country. Third, I want to be like him.

☆What can we do to help other people?

The important thing is (to be thankful to live).

Someone can't eat food now. But we can eat food now. So I think we have to be thankful to live. When I eat food, I want to a greeting right.

☆What is "Happiness" for you?

My name is [redacted]. I'm 15 years old. My happiness is to see my friends a smiling face. I have reasons. First, When My friends are happy, I am happy. Second, I was helped my friends so from now on, I will help my friends. I have cheered my friends the future for long time.

10 文書いています。1 文あたり平均 5.7 語を使用しています。住所、得意・苦手教科、部活動、趣味と伝えようとする情報量は多いですが、内容にまとまりがありません。

7 文書いています。1 文あたり平均 8 語を使用しています。意見 (My happiness is to see my friends smiling.) に、根拠 (I have reasons. First.... Second,) と論理的な英文が書かれています。when を用いた複文も見られます。部活動における意見+根拠を述べる型の練習の成果や、本文中の my happiness is to do... の表現の活用が分かります。

b B群の生徒の英文

Let's introduce yourself!

★マッピングをして、整理してみよう。

My name is [redacted] I ~~am~~ ^{have} one sister.

Q I am 14 years old. Q I don't like math.

I live in Kashima City. I like sport basket ball.

Q I live in Meirin. I like ~~crabs~~.

But I from Ehime. Q My blood type is A.

My birthday is February 8th.

My hobby is listen to music.

Q I like Sexyzone.

評価 S...10文以上 A...7-9文 B...4-6文 C...0-3文

Lesson 4 Speech — A Man's Life in Bhutan
Worksheet 3

★You are Bhutanese. What do you think of Nishioka Keiji?

I think he ~~is~~ ^{was} very kind.

I have 3 reasons. First, He wanted to teach the us a new way to grow rice. Second, He learned Bhutanese to talk with us. Third, he changed our way of farming. That's why I think so.

★What can we do to help other people?

The important thing is (to talk to the people).

For example, My friends in need can hear talk. Besides, can solve to ~~a~~ ^{her} worry. ^{what I say}

We think to help each other. ^{need}

So, The important is to talk.

★What is "Happiness" for you?

I'm name is [redacted]

I'm 14 years old.

My happiness is to live ⁱⁿ a peaceful country.

The world ^{has} ~~is~~ a war now.

Many people ^{are} ~~is~~ ^{being} ~~by~~ in a war.

I think we ~~don't~~ ^{shouldn't} have a war.

So, The most my happiness feel is live ⁱⁿ a peaceful country. ^{to}

13文書いています。1文あたり平均4.3語を使用しています。情報の羅列にとどまり、内容にまとまりがありません。単文でのみ表現しています。

7文に文数は減少していますが、1文あたり平均6.3語に増えていきます。表現も豊かになり本文中の表現の活用が見られます。本文の内容を踏まえた意見を述べる事ができています。英文の質の高まりから、読みの深まりが分かります。

c C群の生徒の英文

Let's introduce yourself!

☆マッピングをして、整理してみよう。

(basketball)

I am [redacted]

I am 14.

I like basketball

Lesson 4 Speech - A Man's Life in Bhutan
Worksheet 3
☆You are Bhutanese. What do you think of Nishioka Keiji?

I think he is (kind).

I have two reasons.

First, He learned the language.

He, Nishioka, planted seeds from Japan.

☆What can we do to help other people?

The important thing is (to help as soon as possible).

First, when I see

☆What is "Happiness" for you?

My name is [redacted]


I'm 14 years old

My happiness is to play basketball

I have played basketball for 3 years.

It is interesting to play with my friends.

評価 S...10文以上 A...7-9文 B...4-6文 C...0-3文



3文書いています。使用したのは10語です。

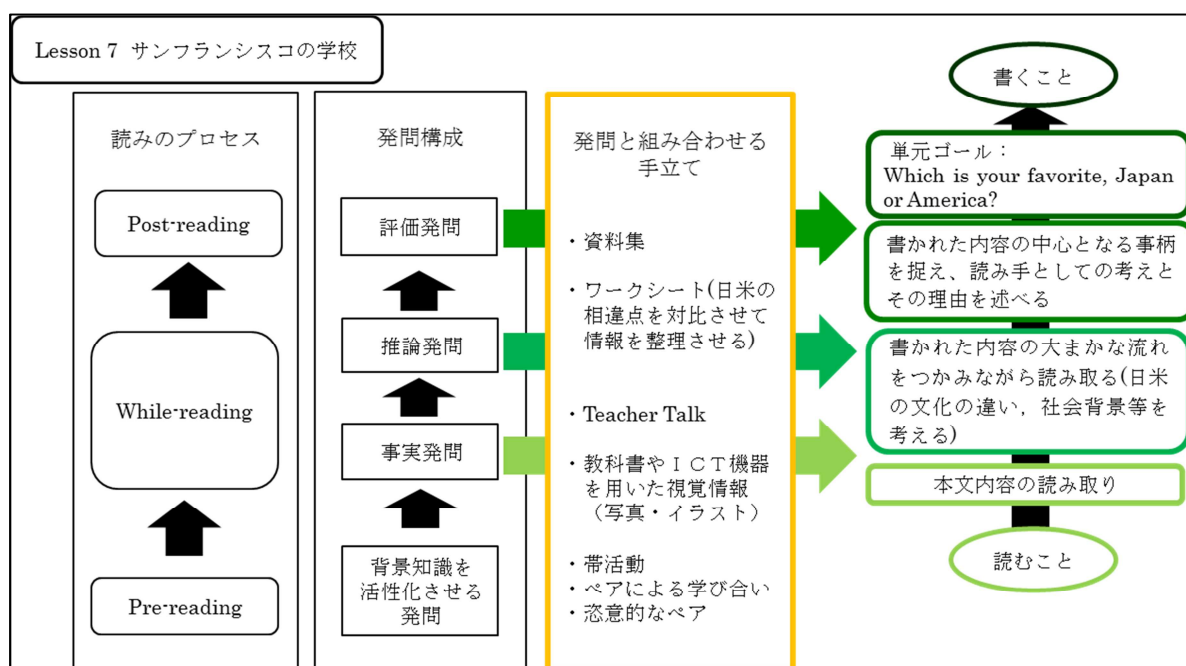
文の数は5文、使用語数も30語に増えました。1文あたり平均6語を使用しています。ペア学習や型の練習の効果が分かります。表現意欲が刺激され、伝えたいことを適切に伝えようとしています。

ウ [実践事例3] 第1学年 Unit 7 サンフランシスコの学校

(ア) 読みのプロセスに応じた発問構成

Pre-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ Teacher Talk や写真などで興味をもたせ、本文の内容をつかみやすくさせる。 ・ 日本とアメリカの文化の違い（学校以外の場面、簡単なもの）を提示し、異文化理解に興味をもたせる。 ・ 生徒との interaction を通して、日本とアメリカの文化の違いに気付かせる。
While-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本文に明示されている情報を引き出す質問をする【事実発問】。 ・ 本文に明示されている情報を表に整理させる【事実発問】。 ・ 日本の学校生活との違いについて考えさせる【推論発問】。
Post-reading	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元で学んだ日本とアメリカの文化の違いを踏まえ“Which is your favorite, Japan or America?”という質問に対する自分の主張をさせる【評価発問】。

(イ) 単元構想図



(ウ) 発問ごとの生徒の読み取りと生徒の思考力の高まりについての見取り

各段階における読み取りができたかどうかは、それぞれ以下の方法で見取ります。また、思考力が高まったかどうかについては、生徒の発話やワークシートの記述及び産出した英文を基に、生徒が読解ストラテジーを活用したかどうかで判断します。

- 事実発問を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、アメリカの学校に関する情報をまとめたワークシートの記述と発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 推論発問を通して、本文に直接示されていないことを推論できているかどうかを、日本の学校生活との違いをまとめたワークシートの記述と発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 評価発問 (Which is your favorite, Japan or America?) に対して、体験を関連付けた上で自分の考えとその理由を述べているかどうかを、ワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。

(エ) 発話とワークシートの記述に見られる生徒の思考力の高まりについて

a 事実発問による見取り

事実発問を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、生徒の発話とワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。思考の分類は、**研究の実際 I 図 2**の Waters の思考の分類と、**研究の実際 I 資料 1**の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（表内 RS）（**研究の実際 I 資料 2**）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及び RS を示しています。

教師の発問	生徒の反応（学習形態）	考察
▶ How many classes does Mei have?	S1:classes...は授業... 6回？（ペア） Ss:Six.（斉）	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RSは、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、翻訳する、検索読み、本文を言い換える等</u>を活用したと考えられます。本文中の英文は“<u>How many classes do you have each day?</u>”と、対話形式でナンシーがメイに質問する形式になっているため、言い換えができなければ解答できません。 思考の分類は②情報変換。RSは、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み等</u>を活用したと考えられます。
▶ How long are the classes? ▶ How long? Long? そう、長い。どのくらい長い？	Ss:長い。（斉） Ss:Fifty minutes.（斉）	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RSは、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、本文を言い換える等</u>を活用したと考えられます。本文中の英文は“<u>We only have five minutes between classes.</u>”と、対話形式でメイがナンシーに回答する形式になっているため、言い換えができなければ解答できません。
▶ How long do they have between classes?	Ss:Five minutes.（斉）	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RSは、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、本文を言い換える、書かれている内容に質問、疑問を抱く等</u>を活用したと考えられます。本文中の英文は“<u>You take the volunteer class, right?</u>” “<u>Yes. I read books to children in hospitals.</u>”と、ナンシーとメイの対話の言い換えができなければ解答できません。
▶ ボランティアの授業をメイはとっている？とっていない？ ▶ 彼女はいったい何をしているんだろうか？ ▶ 誰に？	Ss:とっている。（斉） Ss:病院で読み語り。本を読んでいる。（斉） Ss:子供たちに。（斉）	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は②情報変換。RSは、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、本文を言い換える、書かれている内容に質問、疑問を抱く等</u>を活用したと考えられます。本文中の英文は“<u>Mei, what foreign language do you study?</u>” “<u>I study Spanish.</u>”と、ナンシーとメイの対話の言い換えができなければ解答できません。
▶ What foreign language? ▶ メイが勉強しているのは？	Ss:言語。（斉） Ss:外国語。（斉） Ss:スペイン語。（斉）	

思考の高まりを、各発問に対する生徒の答えと読解ストラテジーとの関連を基に考察します。

ワークシートの記述（抽出生徒）		考察																											
<p>(A群の生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Topic</th> <th>America (本文から読み取った情報を書く)</th> <th>Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Part3 1日の授業数</td> <td>6時間 月3回 (45分・50分・60分・90分)</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> </tr> <tr> <td>授業の時間</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> </tr> <tr> <td>休み時間</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>制服</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> </tr> <tr> <td>★学校のきまり</td> <td>(かみかたは3ヶ月おきだから)</td> <td>(髪を2週間おきだから)</td> </tr> <tr> <td>★掃除</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語 spanish</td> <td>英語</td> </tr> </tbody> </table>		Topic	America (本文から読み取った情報を書く)	Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)	Part3 1日の授業数	6時間 月3回 (45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)	授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)	休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)	ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)	制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)	★学校のきまり	(かみかたは3ヶ月おきだから)	(髪を2週間おきだから)	★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)	勉強する外国語	スペイン語 spanish	英語	<ul style="list-style-type: none"> A群の生徒は、事実発問への解答、日本の学校との対比及びそれらを関連付けた推論発問への解答全てに答えています。思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用。RSは、読み直し、視覚情報の参照、内容・話題の知識を活用する、個人的体験と照合する、文化的知識を活用する、推測、憶測する等だと考えられます。
Topic	America (本文から読み取った情報を書く)	Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)																											
Part3 1日の授業数	6時間 月3回 (45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)																											
授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)																											
休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)																											
ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)																											
制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)																											
★学校のきまり	(かみかたは3ヶ月おきだから)	(髪を2週間おきだから)																											
★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)																											
勉強する外国語	スペイン語 spanish	英語																											
<p>(B群の生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Topic</th> <th>America (本文から読み取った情報を書く)</th> <th>Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Part3 1日の授業数</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> </tr> <tr> <td>授業の時間</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> </tr> <tr> <td>休み時間</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>制服</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> </tr> <tr> <td>★学校のきまり</td> <td>(服装が自由)だから</td> <td>(きまりがたくさん)だから</td> </tr> <tr> <td>★掃除</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td>英語</td> </tr> </tbody> </table>		Topic	America (本文から読み取った情報を書く)	Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)	Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)	授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)	休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)	ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)	制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)	★学校のきまり	(服装が自由)だから	(きまりがたくさん)だから	★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)	勉強する外国語	スペイン語	英語	<ul style="list-style-type: none"> B群の生徒も、事実発問への解答、日本の学校との対比及びそれらを関連付けた推論発問への解答全てに答えています。思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用。RSは、読み直し、視覚情報の参照、内容・話題の知識を活用する、個人的体験と照合する、文化的知識を活用する、推測、憶測する等だと考えられます。
Topic	America (本文から読み取った情報を書く)	Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)																											
Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)																											
授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)																											
休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)																											
ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)																											
制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)																											
★学校のきまり	(服装が自由)だから	(きまりがたくさん)だから																											
★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)																											
勉強する外国語	スペイン語	英語																											
<p>(C群の生徒)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Topic</th> <th>America (本文から読み取った情報を書く)</th> <th>Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Part3 1日の授業数</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> <td>(45分・50分・60分・90分)</td> </tr> <tr> <td>授業の時間</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> <td>(1分・5分・10分・15分)</td> </tr> <tr> <td>休み時間</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> <td>(授業がある・行事がある)</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>制服</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> <td>(やさしい・きびしい)</td> </tr> <tr> <td>★学校のきまり</td> <td>()だから</td> <td>()だから</td> </tr> <tr> <td>★掃除</td> <td>(ある・ない)</td> <td>(ある・ない)</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		Topic	America (本文から読み取った情報を書く)	Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)	Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)	授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)	休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)	ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)	制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)	★学校のきまり	()だから	()だから	★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)	勉強する外国語	スペイン語		<ul style="list-style-type: none"> C群の生徒は、事実発問への解答はできています。また、事実発問に関連する日本の学校との対比も解答しています。思考の分類は②情報変換。RSは、読み直し、視覚情報の参照、文化的知識を活用する等だと考えられます。
Topic	America (本文から読み取った情報を書く)	Japan (アメリカの情報から日本の事情を考える)																											
Part3 1日の授業数	(45分・50分・60分・90分)	(45分・50分・60分・90分)																											
授業の時間	(1分・5分・10分・15分)	(1分・5分・10分・15分)																											
休み時間	(授業がある・行事がある)	(授業がある・行事がある)																											
ボランティア	(ある・ない)	(ある・ない)																											
制服	(やさしい・きびしい)	(やさしい・きびしい)																											
★学校のきまり	()だから	()だから																											
★掃除	(ある・ない)	(ある・ない)																											
勉強する外国語	スペイン語																												
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">事実発問への解答</div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">推論発問への解答</div> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;">日本の学校との対比</div>		<ul style="list-style-type: none"> ○事実発問への解答状況から、A群、B群、C群の生徒全てが、研究の実際 I 図2による情報内思考のレベルである②情報交換を行っていることが分かります。推論発問への解答状況から、A群、B群の生徒は、情報を超えた思考のレベルである③解釈、④応用を行っていることが分かります。C群の生徒は、このレベルの認知処理は行っていないことが分かります。RSについても、C群の生徒は、推測、憶測するというストラテジーを活用していないことから、事実情報を関連付けて考えを述べることには困難さを感じていることが分かります。したがって、研究の実際 I 資料1による関連性を見付けさせたり、比較させたりする発問を行う必要があります。発問以外については、発話の状況から、ペアによる確認、一斉によるインタラクションが効果的であることが考えられます。また、Teacher Talkは、事実発問に関しては、本文に書かれている英文を音声と結び付けることができるので、理解を促すのに役立つと言えます。RSで言えば、内的音声化を引き出すことが考えられます。日本語を介さずに内容を理解する力を付けていくためにも、積極的にTeacher Talkを使用することが望まれます。 																											

b 推論発問による見取り

推論発問を通して、本文に直接示されていないことを推論できているかどうかを、生徒の発話とワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。思考の分類は、**研究の実際 I 図 2**の Waters の思考の分類と、**研究の実際 I 資料 1**の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（**研究の実際 I 資料 2**）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及びRSを示しています。

教師の発問	生徒の反応（学習形態）	考察
<p>▶ Why does Mei study Spanish?（電子黒板に質問を提示）</p> <p>▶ 外国語を勉強する理由って？</p>	<p>S1: あっ、病院の子供たちへの本読み？（ペア）</p> <p>S2: スペイン…ボランティア…病院の人たち…あっ、hospital で書いてある。私は、病院の子供たちに本を読む。学校の決まりは、やさしい？本を読むから。（ペア）</p> <p>S3: I study Spanish…勉強する語はスペイン語じゃないの？（ペア）</p>	<p>・思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用、⑤分析。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙、今読んでいる文脈等を活用した</u>と考えられます。</p>
<p>▶ サンフランシスコでスペイン語が学ばれている理由は？</p> <p>▶ 本文に書かれていることプラス配付資料のイラストから分かるといね。</p> <p>▶ (アメリカの西海岸で話されている言語分布図を見ながら)この旗が表す国ってどこにあるんだろう？</p>	<p>S4: 友達がスペイン人で…住んでいるところがアメリカのサンフランシスコ。スペイン人の友達がいるから、一緒に話したい、ということじゃないの？だって、friend…がスペイン語を話すから。（グループ）</p> <p>S5: もとスペインが領土にしていた。（グループ）</p> <p>S6: 親がスペイン人だから。（グループ）</p> <p>S7: ボランティアさんが…（グループ）</p> <p>S8: スペインが支配している…（グループ）</p> <p>S4: サンフランシスコはスペイン語やろ？だいたいその青いところはスペインやろ？スペインのマークやん。（グループ）</p> <p>S9: 移民が作る社会</p> <p>S10: (社会科資料集を取り出し、アメリカ大陸とヨーロッパ大陸との位置関係を確認して) スペインからの移民？（グループ）</p>	<p>・思考の分類は②情報変換、③解釈、④応用、⑤分析。RS は、<u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙、今読んでいる文脈等を活用した</u>と考えられます。</p> <p>・思考の分類は⑤分析、⑥総合、創造、⑦評価。RS は、<u>戻り読み、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識等を活用した</u>と考えられます。</p> <p>○発問と組み合わせる配付資料や電子黒板に提示された関連する視覚情報により、RS の要素が変化し、思考の分類が情報を超えた思考にシフトしたのが分かります。それに伴い、ペアやグループでの話合いが活発になっています。このレベルの認知処理を行うには、学習形態の工夫が効果を発揮するといえます。</p>

思考の高まりを、推論発問に対する生徒の答えと読解ストラテジーとの関連を基に考察します。また、何を根拠に推論しているのかをワークシートの記述から分析します。

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察																					
<p>(A群の生徒)</p> <table border="1"> <tr> <td>Topic</td> <td>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></td> <td>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語 Spanish</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>★外国語を勉強する理由</td> <td>友達が話すから(17%)</td> <td>科目に英語があるから 外国にまで行かないため</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>★外国語を勉強する理由</td> <td>英語がわからずはスペイン語が(18%)から</td> <td>将来ここで働く。外人の境 界ができるように。</td> </tr> </table> <p>植民地になつてたから、スペイン語の人が、スペイン語を話さる</p>	Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	勉強する外国語	スペイン語 Spanish	英語	★外国語を勉強する理由	友達が話すから(17%)	科目に英語があるから 外国にまで行かないため	勉強する外国語	スペイン語	英語	★外国語を勉強する理由	英語がわからずはスペイン語が(18%)から	将来ここで働く。外人の境 界ができるように。	<p>ワークシートの質問は、「(サンフランシスコの中学生が)勉強する外国語とその外国語を勉強する理由を書こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> A群の生徒は、推論発問への解答ができています。また、本文を基にした推論、配付資料を基にした推論及び背景知識を基にした推論を行っているのが分かります。思考の分類は、③解釈、④応用、⑤分析。RSは、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識等を活用したと考えられます。 B群の生徒は、推論発問への解答ができています。また、本文を基にした推論、配付資料を基にした推論を行っているのが分かります。思考の分類は、③解釈、④応用、⑤分析。RSは、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識等を活用したと考えられます。 C群の生徒は、推論発問への解答ができています。配付資料または、背景知識を基にした推論であり、本文を根拠としているわけではないことが分かります。思考の分類は、③解釈。RSは、他のテキストの知識、文化的知識等を活用したと考えられます。 						
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>																				
勉強する外国語	スペイン語 Spanish	英語																				
★外国語を勉強する理由	友達が話すから(17%)	科目に英語があるから 外国にまで行かないため																				
勉強する外国語	スペイン語	英語																				
★外国語を勉強する理由	英語がわからずはスペイン語が(18%)から	将来ここで働く。外人の境 界ができるように。																				
<p>(B群の生徒)</p> <table border="1"> <tr> <td>Topic</td> <td>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></td> <td>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>★外国語を勉強する理由</td> <td>サンフランシスコにヒスパニック系の人が多いから</td> <td>②外国語を話している人を知りたいから</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>★外国語を勉強する理由</td> <td>ホラニテラで話せること の中にスペイン語がわかるから</td> <td>外国人とであうかも したいから</td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td>英語</td> </tr> <tr> <td>★外国語を勉強する理由</td> <td>周りのみんなが、 スペイン語を話しているから</td> <td>話せるし、おもしろいから</td> </tr> </table>	Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	勉強する外国語	スペイン語	英語	★外国語を勉強する理由	サンフランシスコにヒスパニック系の人が多いから	②外国語を話している人を知りたいから	勉強する外国語	スペイン語	英語	★外国語を勉強する理由	ホラニテラで話せること の中にスペイン語がわかるから	外国人とであうかも したいから	勉強する外国語	スペイン語	英語	★外国語を勉強する理由	周りのみんなが、 スペイン語を話しているから	話せるし、おもしろいから	<ul style="list-style-type: none"> ○推論発問への解答状況から、A群、B群の生徒は、研究の実際 I 図 2 による情報を超えた思考のレベルである③解釈、④応用、⑤分析を行っていることが分かります。C群の生徒は、③解釈を行っているものの、その根拠は本文が基になっているわけではありません。C群の生徒にとって、情報を超えた思考のレベルを本文を基にして求められると、困難さを感じるということが分かります。RSについても、本文に直接関わる要素が見えませんが、配付資料を活用していることから、教師の指示を聞いて何とか答えようとする姿勢が見られるといえます。したがって、関連性を見付けさせたり、比較させたりする発問（研究の実際 I 資料 1）を、本文に着目させて行う必要があります。発問以外については、発話の状況から、ペアやグループでの話し合いが効果的であることが考えられます。また、地図などの視覚情報が理解を促したと考えられますので、このレベルの認知処理を本文を基に行うためには、発問と組み合わせる手立てについて再考する必要があります。
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>																				
勉強する外国語	スペイン語	英語																				
★外国語を勉強する理由	サンフランシスコにヒスパニック系の人が多いから	②外国語を話している人を知りたいから																				
勉強する外国語	スペイン語	英語																				
★外国語を勉強する理由	ホラニテラで話せること の中にスペイン語がわかるから	外国人とであうかも したいから																				
勉強する外国語	スペイン語	英語																				
★外国語を勉強する理由	周りのみんなが、 スペイン語を話しているから	話せるし、おもしろいから																				
<p>(C群の生徒)</p> <table border="1"> <tr> <td>Topic</td> <td>America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small></td> <td>Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small></td> </tr> <tr> <td>勉強する外国語</td> <td>スペイン語</td> <td></td> </tr> <tr> <td>★外国語を勉強する理由</td> <td>植民地になつてたから</td> <td>外人などの人としゃべれるから</td> </tr> </table> <p>本文を基にした推論</p> <p>配付資料を基にした推論</p>	Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>	勉強する外国語	スペイン語		★外国語を勉強する理由	植民地になつてたから	外人などの人としゃべれるから													
Topic	America <small>(本文から読み取った情報を書く)</small>	Japan <small>(アメリカの情報から日本の事情を考える)</small>																				
勉強する外国語	スペイン語																					
★外国語を勉強する理由	植民地になつてたから	外人などの人としゃべれるから																				

c 評価発問による見取り

評価発問（Which is your favorite, Japan or America?）を行い、読み取りをワークシートの記述で見取ります。思考の分類は、研究の実際 I 図 2 の Waters の思考の分類と、研究の実際 I 資料 1 の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（研究の実際 I 資料 2）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及びRSを示しています。ここでは、本研究の焦点を当てていないため、生徒の記述内容のみを示します。

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察
<p>(A群の生徒)</p> <p>STEP 3 日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由をつけて主張しよう。</p> <p>私は / 僕は (Japan / America) の方がお気に入りです。(好きです)</p> <p>Japan is my favorite. I live in Japan. We have lunch with my friends. <u>Our school lunch is nutritious.</u> It's good. It's healthy. I like school lunch. Thank you</p> <p><i>It's good and healthy.</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・A群の生徒は、評価発問への解答ができています。思考の分類は、⑤分析、⑥総合・創造、⑦評価。このことから、評価発問に対応した思考のレベルに至っていることが分かります。RSは、内容・話題の知識を活用したり個人的体験と照合したりして、自分の考えを根拠を基に述べていることができています。発問との組合せとして、Teacher Talk を基にした考えを書いています。Output には、本文のみならず音声による Input も取り込まれて表出されるのが分かります。
<p>(B群の生徒)</p> <p>STEP 3 日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由をつけて主張しよう。</p> <p>私は / 僕は (Japan / America) の方がお気に入りです。(好きです)</p> <p>Japan is my favorite. 日本が私の気に入っています。 I live in Japan. 私は日本に住んでいます。 Japan is a peaceful country. 日本は平和な国です。 <u>I like Japanese culture.</u> 私は日本の文化が好きです。 <u>We love Japanese food.</u> 私は日本食(和食)が好きです。 <u>Japan is safe.</u> 日本は安全です。 <u>We clean our school.</u> 私は学校を掃除します。 So I like Japan very much.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・B群の生徒も、評価発問への解答ができています。思考の分類、RSともに、A群の生徒と同レベルの認知処理を行っているのが分かります。発問との組合せにおいても、Teacher Talk を基にした考えを書いています。 ・C群の生徒は、評価発問への解答ができていません。自分の考えとその理由に相当するものを書いてはいますが、本文との関連付けができていません。推論発問の段階のC群の生徒の解答状況との関連が見られます。
<p>(C群の生徒)</p> <p>STEP 3 日本とアメリカの違いを知り、自分がどちらを好むかについて理由をつけて主張しよう。</p> <p>私は / 僕は (Japan / America) の方がお気に入りです。(好きです)</p> <p>I like Japan I like Japanese comics <u>ONE PIECE is famous</u> So I love Japan</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○A群の生徒は、一つのテーマを掘り下げてまとまりのよい英文を書くことができています。これは、書くことの領域において伸ばしていくべきスキルとなります。B群の生徒の Output とA群の生徒の Output との違いは、B群の生徒は、文の羅列になっている点です。本研究が焦点を当てている考えを引き出すところまではできていますので、この後、書くことの領域において、まとまりのある英文を書くための手立てをとる必要があります。C群の生徒については、自分の考えとその理由を合わせて述べるということができています。ことから、普段の指導が生かされていることが分かります。ただし、本文との関連付けがないので、本文を読み取ったり、それを取り込んだりするための手立てを考える必要があります。

(オ) Outputにつながる手立てについて

今回の検証授業における評価発問（Which is your favorite, Japan or America?）に対する解答とその根拠について、A群、B群、C群の生徒が産出した英文を基に考察します。

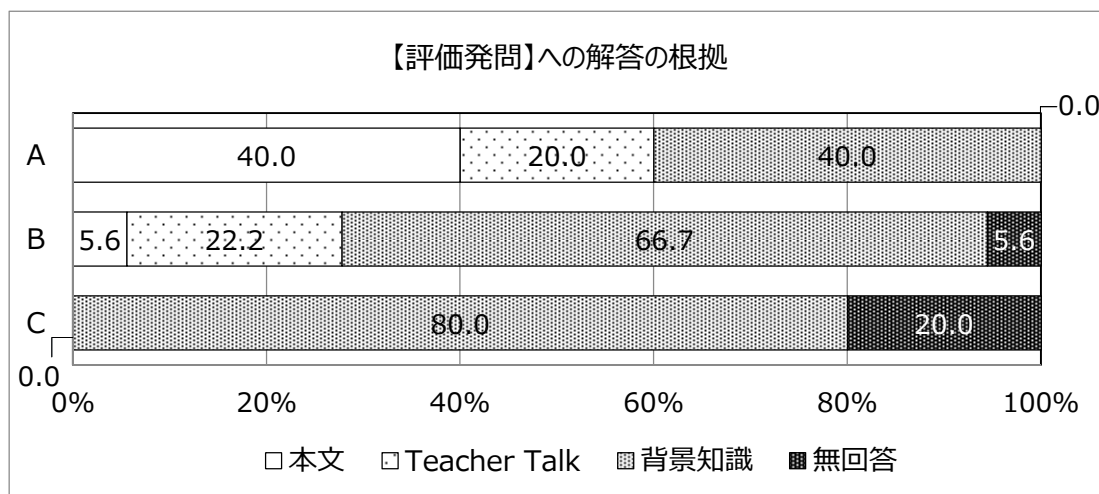


図10 評価発問への解答の根拠

図10から、A群の生徒の40.0%が本文を根拠として解答していることがわかります。背景知識を根拠として解答した生徒も同じ割合います。Teacher Talkの内容を根拠とした生徒は、20.0%となっています。このことから、A群の生徒は読み取った本文内容と個人的体験を照合して評価発問へ解答できていることがわかります。また、音声によるInputであるTeacher Talkも活用しています。B群の生徒は、A群の生徒と比較すると、本文内容を根拠とする割合が減り、背景知識の割合が増えているのがわかります。Teacher Talkの割合は、あまり差がありません。また、無解答が5.6%となっています。C群の生徒は、解答ができていても根拠は背景知識のみとなっています。また、無解答が20.0%となっています。以上のことから、外国語理解の能力が高い生徒ほど、評価発問に対して、読み取った内容、Teacher Talk及び個人的体験をバランスよく統合して解答するといえます。A群とB群の状況から、Teacher TalkがInputとして取り込まれ、Outputとして表出することがわかります。C群の生徒は、評価発問の段階の認知処理が困難であることがわかります。80.0%は何らかの解答をしていることから、視覚情報やペア、グループ活動などの学習形態の工夫が効果的に働いたのではないかと考えられます。またC群の抽出生徒のワークシートの解答状況から、英作文の型が与えられていれば、テーマに関連することで何とか書こうとすることがわかります。

(カ) 中学1年生英語アンケート結果より

検証授業前後でアンケートを実施しました。次のような結果となりました(図11)。「英語で書かれた文章を読むことは好きですか。」の問いに対する回答は、「好き」が15.2%増、「まあまあ好き」が12.0%増となり、「好き」「まあまあ好き」と回答した生徒の割合が62.9%となりました。

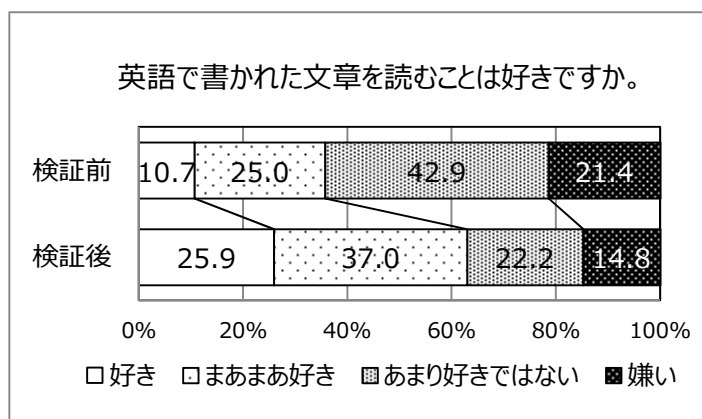


図11 読むことに対する意識

また、「英語の文章を読んで、意味が分からない単語や文があった場合はどうしますか」という問いに対する回答は、「推測する」が3.4%増、「何もしない」が4.3%減となりました(図12)。

以上のことから、読みのプロセスを踏まえた言語活動を通して、英語を読むことが好きな生徒が増えたことが分かります。また、分からない単語や文があったときには、すぐに辞書に頼るのではなく、まずは自分で考えようとする生徒が増えたことが分かります。加えて、何もしない生徒が減ったことが分かります。

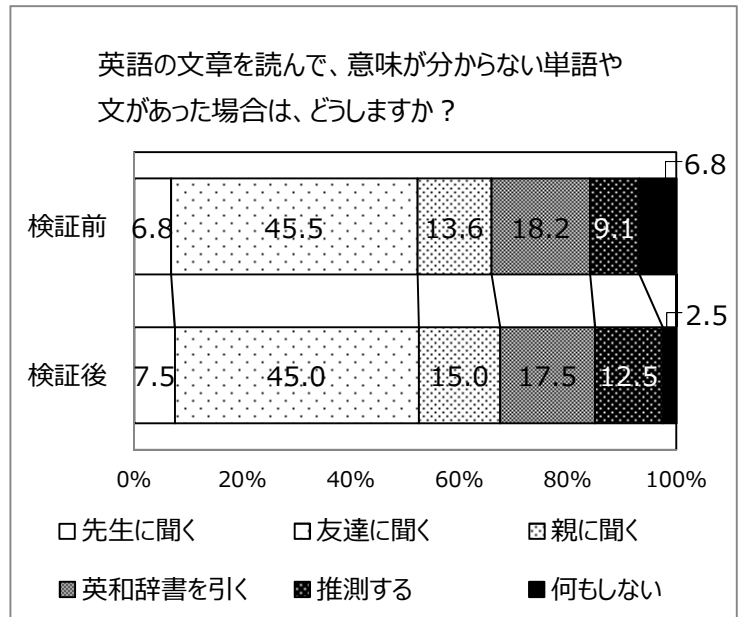


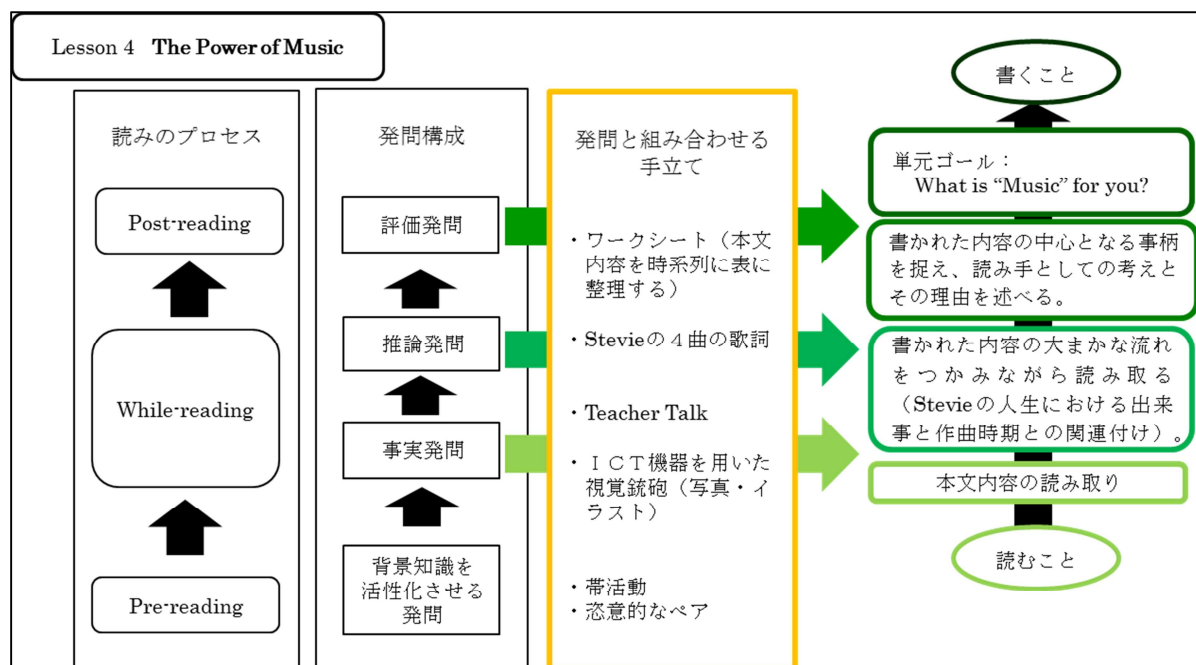
図12 読みのつまずきに対する対応

エ [実践事例4] 第3学年 Lesson 5 Stevie Wonder -The Power of Music

(ア) 読みのプロセスに応じた発問構成

Pre-reading	<ul style="list-style-type: none"> Teacher Talkや写真などで興味をもたせ、本文の内容をつかみやすくさせる。 生徒とのInteractionの中でStevieに関するキーワードや写真の質問に答えさせ、情報を整理させる。
While-reading	<ul style="list-style-type: none"> 生徒とのInteractionの中で本文に関する質問に答えさせたり、タイムラインに情報を整理させたりする【事実発問】。 歌の歌詞に込められた思いを読み取らせ、その前後に起きたStevieの出来事を根拠に代表曲の作曲時期を推測させる【推論発問】。
Post-reading	<ul style="list-style-type: none"> 「あなたにとって音楽とは？」という質問に4文以上の英文で答えさせ、本文を基に、自分の考えとその理由を書かせる【評価発問】。

(イ) 単元構想図



(ウ) 発問ごとの生徒の読み取りと生徒の思考力の高まりについての見取り

各段階における読み取りができたかどうかは、それぞれ以下の方法で見取ります。また、思考力が高まったかどうかについては、生徒の発話やワークシートの記述及び産出した英文を基に、生徒が読解ストラテジーを活用したかどうかで判断します。

- 事実発問を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、Stevie Wonderに関する情報を時系列にまとめたタイムラインの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 推論発問を通して、タイムラインの情報と4曲の歌詞の内容を基に代表曲の作曲時期を推測することができるかどうかを、ワークシートの記述と発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。
- 評価発問（What is music for you?）に対して、体験を関連付けた上で、自分の考えとその理由を述べているかどうかを、ワークシートの記述と発話で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。

(エ) 発話とワークシートの記述に見られる生徒の思考力の高まりについて

a 事実発問による見取り

事実発問（「Stevie Wonderの人生のタイムラインを作ろう」）を通して、本文に直接示された情報を正確に取り出すことができているかどうかを、Stevie Wonderに関する情報を時系列にまとめたタイムラインの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。生徒が用いると考えられる読解ストラテジーを吹き出しの（ ）内に示しています。

教師の発問	Stevie Wonder's Timeline	
▶ When was he born? ▶ He lost his ...?	(1950)	・ Stevie が生まれる。 ・ まもなく（視力）を失う。 ・ 幼いころ、（ラジオで音楽を聴いて楽しんでいた）。 ・ （スプーン）を使って、音楽に合わせリズムをとっていた。 ・ （ドラム、ピアノなどが）とても上手くなった。
事実発問によるインタラクションを通して、生徒の内容理解を確認する。 （音読、内容・話題の知識を活用する、テキスト形式の知識を活用する等）		
▶ When did he release his first album?	(1963)	・ 初のアルバムをリリース。 ・ （大スター）になった。
本文に明記されていないことを、推論発問によって引き出す。 （他のテキストの知識を活用する、内容・話題の知識を活用する、文化的知識を活用する、推測、憶測する等）	1973	・ （交通事故）に遭い、死に目にあった。 ・ この経験が（彼の人生）を変えた。 ・ （音楽）を通して、（困難な立場にある人々を助けよう）と決意した。
▶ He decided to ...?	1975	・ 娘の誕生。
事実発問によるインタラクションを通して、生徒の内容理解を確認する。 （音読、内容・話題の知識を活用する、テキスト形式の知識を活用する等）	(1980)	・ <u>Martin Luther King, Jr.</u> の誕生日を祝う曲を作った。 アメリカ有色人種の平等な権利を求めて活動を行った人物である。1968年、そのために殺害された。
▶ When did he write a song for Martin Luther King Jr.'s birthday?	(1985)	・ <u>（アパルトヘイト）</u> に対する抗議運動に参加した。 南アフリカの白人の便宜を図るための制度 ・ 2つの歌に参加した： ①アフリカの飢餓に苦しむ人々のための（We Are the World） ②AIDS研究のための（That's What Friends Are For） ・ （国連）に招かれ、（It's Wrong）という曲を披露した。 ・ Black Man を歌った。
▶ He joined demonstrations against ...? ▶ When was that?		
事実発問によるインタラクションを通して、生徒の内容理解を確認する。（音読、内容・話題の知識を活用する、テキスト形式の知識を活用する等）	(1986)	・ Martin Luther King の誕生日が国民の祝日に制定された。
▶ When did King's birthday become a national holiday?		

（注）実際のタイムラインは英語で書かれており、（ ）内に答えを記入します。著作権に配慮し、日本文に書き換えています。

事実発問の解答状況（表2）を見てみます。A群の生徒は全員が個人で解答できています。B群の生徒は、ほぼ全員が個人で解答できていますが、ペア活動で完成させた生徒が6.3

表2 事実発問への解答状況

	事実発問への解答状況(解答できた時の学習形態)		
	(個)	(ペア)	(斉)
A群の生徒	100.0%	0.0%	0.0%
B群の生徒	93.7%	6.3%	0.0%
C群の生徒	35.0%	45.0%	20.0%

%います。C群の生徒は個人で解答できた生徒が35.0%で半分以下です。45.0%の生徒がペア活動で完成させることができていることが分かります。20.0%の生徒が全体での確認の際に完成させているのが分かります。このことから、3年生では、事実発問の段階であってもC群の生徒にとっては個人で解答するのは困難さを感じているのが分かります。前頁のワークシートの例の通り、既習事項とはいえ全てが英語で書かれていること、発問は英語で行われたことが、C群の生徒にとっての困難さの要因となっていると考えられます。しかし、この表が示すように、学習形態の工夫をすることで、無解答はありませんでした。良質のInputが豊かなOutputにつながっていくことを考えると、できるだけ英語で英語を理解し、読解ストラテジーを活用していくことは理想的な展開だと言えます。そのため視覚情報を取り入れたり学習形態の工夫をしたりするなどの手立てが重要となります。

b 推論発問による見取り

推論発問を通して、本文に直接示されていないことを推論できているかどうかを、生徒の発話とタイムラインの情報と4曲の歌詞の内容を基に代表曲の作曲時期を推測したワークシートの記述で見取ります。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。思考の分類は、**研究の実際 I 図2**の Waters の思考の分類と、**研究の実際 I 資料1**の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（表内RS）（**研究の実際 I 資料2**）の活用で判断します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及びRSを示しています。

読解中の発話	ワークシートの記述	考察
S1:歌詞に my life があり、タイムラインにも his life と書いてある。	歌詞に my life と書かれていて、タイムラインにも his life と書かれているから。	・思考の分類は③解釈。RS は、 <u>読み直し、内的音声化、検索読み、他のテキストの知識、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙等</u> を活用したと考えられます。
S2:【B】の歌詞に men が出てくるから（Black Man だと思ふ）。	最後に men と書いてあるから	・思考の分類は③解釈。RS は、 <u>読み直し、内的音声化、検索読み、他のテキストの知識、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙等</u> を活用したと考えられます。
S3:We Are the World、どんな歌だった？This world was made for all men...【B】の歌詞の最後に world が出てくる。これが We Are the World じゃないかな？	最後に all men と書かれているから。	・思考の分類は③解釈、④応用、⑤分析。RS は、 <u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、他のテキストの知識、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙等</u> を活用したと考えられます。
S4:歴史...？	History will happen again という歌詞が、差別をなくすという意味と考えられたから。	・思考の分類は③解釈、④応用、⑤分析。RS は、 <u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、他のテキストの知識、内容・話題の知識、文化的知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙等</u> を活用したと考えられます。
S5:Martin Luther King Jr.'s birthday で、【A】の歌詞に party と書いてある。	歌の中に party や we love you などが入っているから。タイムラインには birthday と書いてあるから。	・思考の分類は③解釈、④応用、⑤分析、評価。RS は、 <u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、他のテキストの知識、内容・話題の知識、文化的知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙等</u> を活用したと考えられます。
S6:【B】は Black Man。Black Man は黒人？magic colors とか red、blue、white とか書いてあるので、黒人だと思った。	歌の中に colors、red、blue などの色が書いてあるから。	・思考の分類は③解釈、④応用、⑤分析、評価。RS は、 <u>戻り読み、読み直し、内的音声化、検索読み、概要把握読み、他のテキストの知識、内容・話題の知識、文化的知識、翻訳する、推測、憶測する、語彙等</u> を活用したと考えられます。
		○発問と組み合わせる歌詞により、RS の要素が変化し、思考の分類が情報を超えた思考にシフトしたのが分かります。それに伴い、ペアやグループでの話し合いが活発になっています。このレベルの認知処理を行うには、学習形態の工夫が効果を発揮するといえます。

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察
<p>(A群の生徒)</p> <p>【C】 理由: Sunshine という単語が日光という 意味だったので視力を失ったということ に気づいたから。</p> <p>【D】 理由: 子どもが生まれた喜びについて の歌詞だから。</p> <p>【A】 理由: At a day in your celebration とは Martin Luther King, Jr. の誕生日と 同じだから。</p> <p>【B】 理由: History will repeat again という歌詞が 差別を繰り返すという意味と気づいた から。</p>	<p>発問は、“When were the songs written? And why do you think so?”</p> <p>・A群の生徒は、推論発問への解答ができています。また、本文（タイムライン）を基にした推論、歌詞を基にした推論及び背景知識を基にした推論を行っていることが分かります。思考の分類は、③解釈、④応用、⑤分析。RSは、読み直し、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識、語彙等を活用したと考えられます。全体への発問のみで解答をしています。教師の個別の発問は必要としていません。</p>
<p>(B群の生徒)</p> <p>【D】 理由: Isn't she lovely ね、かわいいな 曲ど、そこからにんまがどときたと気づくから</p> <p>【C】 理由: おめでとう 誕生日おめでとうにちがえない、T</p> <p>T: Birthday に関係のある言葉はないかな？ (個への発問→B、C群の生徒)</p> <p>【A】 理由: 歌の中に party we love you などがはいっているから タイムラインは、イラストとつながるから</p> <p>【B】 理由: 歌の中に colors, red, blue などの色が入っているから</p> <p>T: タイトルに Black という色を表す言葉が入っているね。(個への発問→B、C群の生徒)</p>	<p>・B群の生徒は、推論発問への解答ができています。また、本文（タイムライン）を基にした推論、歌詞を基にした推論及び背景知識を基にした推論を行っていることが分かります。思考の分類は、③解釈、④応用、⑤分析。RSは、読み直し、検索読み、概要把握読み、内容・話題の知識、翻訳する、推測、憶測する、他のテキストの知識、文化的知識、語彙等を活用したと考えられます。また、教師の個別の発問により、検索読みを行ったと考えられます。</p>

<p>(C群の生徒)</p> <p>T : You are the sunshine of my life の you は誰のことだろう？ (個への発問→C群の生徒)</p>	<p>・C群の生徒は、推論発問への解答ができていないことが分かります。全体の発問のみでは解答ができなかったため、教師が個別に発問をしています。解答状況を見ると本文（タイムライン）との関連付けはできておらず、教師の発問から歌詞の内容を検索読みしているのが分かります。思考の分類は、③解釈。RSは、<u>検索読み</u>を活用したと考えられます。</p>
<p>【C】 理由： You は 親のこと</p>	
<p>T : Isn't she lovely の she は誰のことだろう？ (個への発問→C群の生徒)</p>	
<p>【D】 理由： 娘に文をよみ歌だから She は 娘のことをさしている</p>	
<p>【A】 理由：</p>	
<p>T : Birthday に関係のある言葉はないかな？ (個への発問→B、C群の生徒)</p> <p>T : タイトルに Black という色を表す言葉が入っているね。(個への発問→B、C群の生徒)</p>	<p>○推論発問への解答状況から、A群、B群の生徒は、研究の実際 I 図2による情報を超えた思考のレベルである③解釈、④応用、⑤分析を行っていることが分かります。ただし、B群の生徒は一部教師の個別の発問を必要としています。C群の生徒は、教師の個別の発問により③解釈を行っているものの、本文（タイムライン）と歌詞との関連付けはできていません。歌詞の英文は4曲中3曲が初見であったために、C群の生徒は、困難さを感じたことが分かります。RSについても、本文（タイムライン）に直接関わる要素が見えません。関連性を見付けさせたり、比較させたりする発問（研究の実際 I 資料1）は行われているので、初見の英文については提示する量に配慮する必要があると考えられます。発問以外については、授業中の様子から、ペアやグループでの話し合いが活発に行われていました。無解答が少ないことから効果的であることが考えられます。また、視覚情報の提示で理解が促されることがありますので、このレベルの認知処理を行うためには、発問と組み合わせる手立てについて再考する必要があります。</p>
<p>【B】 理由： 色が入った歌詞</p>	

c 評価発問による見取り

評価発問（What is music for you?）を行い、読み取りをワークシートの記述で見取ります。思考の分類は、**研究の実際 I 図2**のWatersの思考の分類と、**研究の実際 I 資料1**の意見・考えを引き出す工夫を参照します。思考力の高まりは読解ストラテジー（**研究の実際 I 資料2**）の活用で判断します。また、発問以外の手立ての関連についても分析します。○は各段階を総括した考察です。下線部は思考の分類及びRSを示しています。

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察
<p>(A群の生徒)</p> <p>☆You are Stevie Wonder. What is "Life" for you?</p> <p>Life is (helping others , Aisha and so on). Because I sang many songs to others . I think helping others is important . I lost my eyesight . So I decided to help others who have difficulties . If I regain my eyesight , I think I can helping more people .</p> <p>☆What do you think of the songs Stevie wrote? Very Good Job!!</p> <p>I think the songs he wrote are (good). There are (three) reasons . First , the songs which was written by Stevie is touched people many people . Second , he wrote a lot of songs inspite of having lost his eyesight . Third , he wrote a lot of songs to help others . That's why I think so .</p> <p>☆What is "Music" for you?</p> <p>Music is important for me . When I listen to music , I'm so happy . I sometimes play the piano . It's difficult for me . But , When I could^{can} it , I have a sense of accomplishment . I want to became good at playing piano like Stevie . I think the^{people} person who can play the piano well is^{are} great . If I meat^{meet} Stevie , I'd want to shake hands .</p>	<ul style="list-style-type: none"> 思考の分類は、⑥総合・創造、⑦評価。RSは、<u>内容・話題の知識、表現を言い換える、感想を述べる、トピックを活用している</u>と考えられます。 思考の分類は、⑦評価。RSは、<u>内容・話題の知識、表現を言い換える、感想を述べる、トピックを活用している</u>と考えられます。 思考の分類は、⑥総合・創造、⑦評価。RSは、<u>内容・話題の知識、個人的体験との照合、表現を言い換える、感想を述べる、内容、トピックを活用している</u>と考えられます。 <p>○A群の生徒は、評価発問への解答ができています。また英文の結束性、論理的一貫性も見られます。</p>

ワークシートの記述（抽出生徒）	考察
<p>(B群の生徒)</p> <p>☆You are Stevie Wonder. What is "Life" for you?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Life is (to sing a song). I love music - To sing a song I enjoy. I want to my eyesight is to return I would like people to hear my songs so, I sing continue from now on to sing</p> </div> <p>☆What do you think of the songs Stevie wrote?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I think the songs he wrote are (wonderful). There are (3) reasons. First. He went to the United Nations Second. He wrote songs inspite of having lost his eyesight third He got a grammy award That's why I think so</p> </div> <p>☆What is "Music" for you?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Music is enjoyable for me when I listen to music, I can do ^{homework} now work. I like Inoue sanoko's songs when I listen to music I'm active I like ^{her} voice.</p> </div>	<p>・思考の分類は、⑥総合・創造、⑦評価。RSは、<u>内容・話題の知識、表現を言い換える、感想を述べる、内容、トピック</u>を活用していると考えられます。</p> <p>・思考の分類は、⑦評価。RSは、<u>内容・話題の知識、表現を言い換える、感想を述べる、内容、トピック</u>を活用していると考えられます。</p> <p>・思考の分類は、⑦評価。RSは、<u>表現を言い換える、感想を述べる内容、トピック</u>を活用していると考えられます。</p> <p>○B群の生徒は、評価発問への解答ができています。自分の考えや気持ちを表現することができています。</p>

ワークシートの記述 (抽出生徒)	考察
<p>(C群の生徒)</p> <p>☆You are Stevie Wonder. What is "Life" for you?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Life is (music ^{became}) . I became very good at playing musical instruments For example, drums, piano and so on. I love music</p> </div> <p>☆What do you think of the songs Stevie wrote? Good Job!!</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>I think the songs he wrote are (Great) . There are () reasons. First. He lost his eyesight, but he kept writing songs. Second. He writes wonderful songs that help others who have difficulties. Third, he was thirteen years old, ^{when} Steve released his ^{first} album, ^{thirteen}</p> <p>That's why I think so.</p> </div> <p>☆What is "Music" for you?</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Music ^{makes} is makes me happy for me When I listen to music, I become cheerful and happy. I often listen to music especially when I am alone. These days, I always listen to English songs. They are interesting.</p> </div>	<p>・思考の分類は、③解釈。RSは、表現を言い換える、内容・話題の知識を活用していると考えられます。</p> <p>・思考の分類は、⑤分析、⑦評価。RSは、内容・話題の知識、表現を言い換える、感想を述べる、内容、トピックを活用していると考えられます。</p> <p>・思考の分類は、⑥総合、創造、⑦評価。RSは、表現を言い換える、個人的体験と照合する、感想を述べる、内容、トピックを活用していると考えられます。</p> <p>○C群の生徒は、評価発問への解答ができています。また英文の結束性、論理的一貫性も見られます。</p>